

(別記様式第 1 号)

計画作成年度	平成 3 0 年度
計 画 主 体	登 米 市

登米市鳥獣被害防止計画

<連絡先>

担 当 部 署 名	産業経済部農産園芸畜産課
所 在 地	登米市中田町上沼字西桜場 1 8
電 話 番 号	0 2 2 0 - 3 4 - 2 7 1 3
F A X 番 号	0 2 2 0 - 3 4 - 2 8 0 1
メールアドレス	nouenchiku@city.tome.miyagi.jp

1. 対象鳥獣の種類、被害防止計画の期間及び対象地域

対象鳥獣	カラス（ハシブトガラス及びハシボソガラス。以下「カラス」という。）、スズメ、カルガモ、キジバト、ドバト、ヒヨドリ、ハクビシン、タヌキ、キツネ、ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル
計画期間	平成31年度～平成33年度
対象地域	登米市全域

2. 鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止に関する基本的な方針

(1) 被害の現状（平成29年度）

鳥獣の種類	被害の現状	
	品目	被害数値
カラス スズメ カルガモ キジバト ドバト ヒヨドリ	水稲 豆類	面積 778 a 被害額 7,654千円
ハクビシン タヌキ	野菜	面積 66 a 被害額 2,454千円
ニホンジカ (ニホンカモシカを含む)	水稲 果樹	面積 127 a 被害額 1,491千円
イノシシ	—	面積 — a 被害額 —千円
ニホンザル	—	面積 — a 被害額 —千円
ツキノワグマ	—	面積 — a 被害額 —千円

(2) 被害の傾向

<p>全体的な傾向</p>	<p>カラス、スズメ等の鳥類や、ハクビシン、タヌキ等の小型獣類による農作物被害が増加しているが、ニホンジカ等の大型獣類による農作物被害が大幅に増加しており、年々深刻さを増している。</p> <p>さらに、これまで生息が確認されていなかったイノシシの目撃や、ニホンザル、ツキノワグマが市街地に出没するなど、農作物被害だけではなく人的被害も懸念される状況にある。鳥獣ごとの傾向は次のとおり。</p>
<p>カラス、スズメ カルガモ、キジ バト、ドバト ヒヨドリ</p>	<p>市内全域に生息しており、主な被害としては、水稻や野菜、果樹への食害のほか、市街地においては、糞による衛生被害がある。</p>
<p>ハクビシン、タ ヌキ</p>	<p>市内全域に生息しており、特に山林に近い農地や住宅街などでの出没が多い。主な被害としては、果樹、野菜などの食害のほか、人家への住みつきによる糞尿などの衛生被害がある。</p>
<p>鳥 獣 ご と の 傾 向</p> <p>ニホンジカ（ニ ホンカモシカを 含む）</p>	<p>市東部の山間部、西部の丘陵地帯に生息している。主な被害としては、果樹や野菜の新芽を食べるなどの食害や、水田の踏み荒らしによる農作物被害がある。</p>
<p>イノシシ</p>	<p>これまで生息が確認されていなかったが、近年市北部を中心に目撃情報が寄せられている。農作物被害や人的被害は確認されていないが、年々個体数が増加することが予測されるため、今後被害が発生するおそれがある。</p>
<p>ニホンザル</p>	<p>市東部の山間部に生息しており、年に数日ほど里山や市街地で目撃情報が寄せられている。農作物被害や人的被害は確認されていないが、今後被害が発生するおそれがある。</p>
<p>ツキノワグマ</p>	<p>市東部の山間部、西部の丘陵地帯を中心に、毎年目撃・痕跡情報が寄せられている。年によって出没件数に変動がある。白昼出没するものや市街地付近に出没する事例があり、農作物被害のほか、人的被害も懸念される。</p>

(3) 被害の軽減目標

指標	現状値（平成29年度）	目標値（平成33年度）
カラス、スズメ、カルガモ、キジバト、ドバト、ヒヨドリ	面積 778 a 被害額 7,654千円	面積 661 a 被害額 6,505千円
ハクビシン、タヌキ	面積 66 a 被害額 2,454千円	面積 56 a 被害額 2,085千円
ニホンジカ (ニホンカモシカを含む。)	面積 127 a 被害額 1,491千円	面積 108 a 被害額 1,267千円
イノシシ	面積 - a 被害額 -千円	面積 - a 被害額 -千円
ニホンザル	面積 - a 被害額 -千円	面積 - a 被害額 -千円
ツキノワグマ	面積 - a 被害額 -千円	面積 - a 被害額 -千円

(4) 従来講じてきた被害防止対策

	従来講じてきた被害防止対策	課題
捕獲等に関する取組	<p>春季・秋季における一斉予察捕獲（カラス、スズメ、カルガモ、キジバト、ドバト）</p> <p>被害農業者等の申請に基づく被害農業者等による有害捕獲（ハクビシン、タヌキ）</p> <p>登米市鳥獣被害対策実施隊による有害捕獲（ニホンジカ、ツキノワグマ、鳥類）</p> <p>狩猟者確保対策事業の実施（免許取得等への助成）</p>	<p>鳥獣被害対策実施隊員の隊員数減少による担い手不足が懸念される。</p> <p>ニホンジカ、イノシシについては、生息域及び被害地域が拡大傾向にある。</p>
防護柵の設置等に関する取組	防護柵等の設置に対する設置費用補助	周知不足のため利用件数が少ない。

(5) 今後の取組方針

【全般】

「登米市農作物有害鳥獣対策協議会」において、被害防止対策及び連絡調整を行い、今後、総合対策交付金事業など国及び県の支援制度を活用した捕獲活動経費への補助、わなの購入、地域での防護柵設置などへの支援を検討していくこととする。

また、鳥獣被害対策実施隊員の高齢化が進んでいることから、狩猟免許の助成等の支援を実施し担い手の確保に努める。

【鳥類】

毎年実施している鳥獣被害対策実施隊による予察捕獲を継続する。

【ハクビシン・タヌキ】

家屋や農作物に被害を受けている被害者の申請に基づき、箱わなの設置による捕獲を推進する。

【ニホンジカ・イノシシ】

農地の踏み荒らしや農作物の食害による被害を受けており、農業者等による自主防除を講じても防除できない場合において、実施隊によるくくりわな銃器等を使用して捕獲する。また、捕獲活動については、国及び県の支援制度を活用することによる捕獲器の導入等、捕獲体制の強化に努め、防除活動については、住民主体による侵入防止柵の設置等の自主防除体制の強化を推進する。

【ニホンザル・ツキノワグマ】

目撃情報があるときは、注意喚起、追払い等による被害防除対策を行う。なお、被害防除対策を行ったうえ、捕獲以外に被害を防ぐことができない場合や、人的被害等が生じるおそれがあるときは、安全かつ効果的な方法により捕獲を実施する。

3. 対象鳥獣の捕獲等に関する事項

(1) 対象鳥獣の捕獲体制

登米市鳥獣被害対策実施隊による対象鳥獣の捕獲を実施する。

鳥獣被害対策実施隊員は、市内各町域の猟友会（各町有害駆除隊）より推薦を受け、県から参考送付された有害鳥獣捕獲に従事することが可能な者の名簿の中から登米市長が実施隊員として任命し、対象鳥獣捕獲員として捕獲活動に従事する。

鳥類については、銃器による市内一斉予察捕獲を実施する。

ハクビシン・タヌキについては、被害を受けている農業者等に箱わなを貸出して捕獲する。

ニホンジカやイノシシについては、自主防除による被害防止が困難な場合に、被害発生の都度、状況に応じて捕獲を実施する。また、宮城県が実施している指定管理鳥獣捕獲等事業と連携しながら捕獲に協力する。捕獲にあたっては箱わな、くくりわな、銃器を使用する。

ニホンザルやツキノワグマについては、注意喚起、追払い等の被害防除対策を行ったうえ、捕獲以外に被害を防ぐことができない場合や、人的被害等が生じるおそれがあるときは、安全かつ効果的な方法により捕獲を実施する。

(2) その他捕獲に関する取組

年度	対象鳥獣	取組内容
3 1	鳥類 ニホンジカ イノシシ ニホンザル ツキノワグマ	狩猟者確保対策事業の実施（免許取得等への助成）
3 2	鳥類 ニホンジカ イノシシ ニホンザル ツキノワグマ	狩猟者確保対策事業の実施（免許取得等への助成） 捕獲器の導入
3 3	鳥類 ニホンジカ イノシシ ニホンザル ツキノワグマ	狩猟者確保対策事業の実施（免許取得等への助成） 捕獲器の導入

(3) 対象鳥獣の捕獲計画

捕獲計画数等の設定の考え方

鳥類については、過去の有害捕獲頭数に基づき設定する。
ハクビシン・タヌキについては、捕獲許可件数などを考慮して設定する。
ニホンジカについては、有害捕獲数及び県実施の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲数を考慮して設定する。
イノシシ・ニホンザルについては、過去の目撃情報の件数に基づき設定する。
ツキノワグマについては、過去の捕獲許可件数に基づき設定する。

対象鳥獣	捕獲計画数等		
	31年度	32年度	33年度
カラス	1,070羽	1,070羽	1,070羽
スズメ	520羽	520羽	520羽
カルガモ	180羽	180羽	180羽
キジバト	110羽	110羽	110羽
ドバト	20羽	20羽	20羽
ヒヨドリ	50羽	50羽	50羽
ハクビシン	80頭	80頭	80頭
タヌキ	80頭	80頭	80頭
キツネ	5頭	5頭	5頭
ニホンジカ	20頭	20頭	20頭
イノシシ	10頭	20頭	20頭
ニホンザル	1頭	1頭	1頭
ツキノワグマ	1頭	1頭	1頭

捕獲等の取組内容

- ・鳥類については、銃器を使用して市内一斉に捕獲を実施する。
- ・ハクビシン、タヌキについては、家屋被害や農作物被害が年間を通じて寄せられるため、1年を通して市内全域の被害箇所において、箱わなを使用した捕獲を実施する。
- ・ニホンジカ、イノシシについては、被害の実態に即して、箱わな、くくりわな、銃器等を用いた捕獲を実施する。
- ・ニホンザル、ツキノワグマについては、注意喚起、追払い等の被害防除対策を行ったうえ、捕獲以外に被害を防ぐことができない場合や、人的被害等が生じるおそれがあるときは、安全かつ効果的な方法により捕獲を実施する。

ライフル銃による捕獲等を実施する必要性及びその取組内容
なし。

(4) 許可権限委譲事項

対象地域	対象鳥獣
登米市全域	ニホンジカ キツネ ヒヨドリ

4. 防護柵の設置その他の対象鳥獣の捕獲以外の被害防止施策に関する事項

(1) 侵入防止柵の整備計画

対象鳥獣	整備内容		
	31年度	32年度	33年度
ニホンジカ ニホンカモシカ イノシシ		防護柵設置	防護柵設置

(2) その他被害防止に関する取組

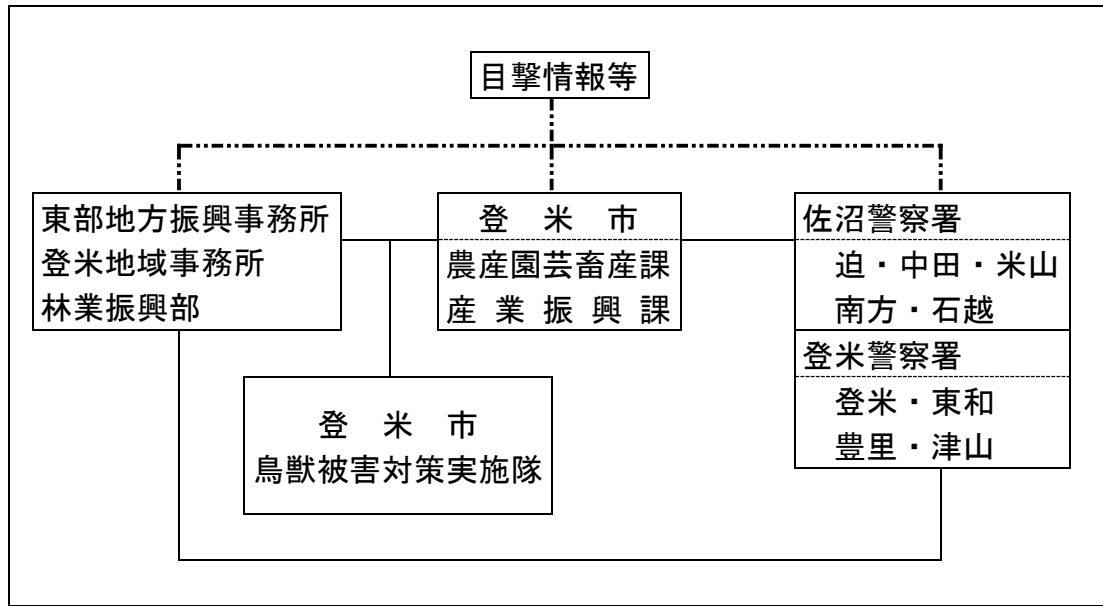
年度	対象鳥獣	取組内容
31年度 ～ 33年度	ツキノワグマ ニホンザル	目撃情報が多数寄せられている地域において追払いを行う。

5. 対象鳥獣による住民の生命、身体又は財産に係る被害が生じ、又は生じるおそれがある場合の対処に関する事項

(1) 関係機関等の役割

関係機関等の名称	役割
登米市	現地確認、関係機関への情報提供、広報等
宮城県東部地方振興事務所 登米地域事務所	現地確認、関係機関への情報提供、指導等
佐沼警察署及び登米警察署	現地確認、巡回等
登米市鳥獣被害対策実施隊	現地確認、捕獲の実施等

(2) 緊急時の連絡体制



6. 捕獲等をした対象鳥獣の処理に関する事項

捕獲した対象鳥獣は、焼却又は埋設等の適切な処理を行う。

7. 捕獲等をした対象鳥獣の食品としての利用等その有効な利用に関する事項

放射性物質の影響により、出荷制限指示等が出ている状況であるため、放射線物質検査の結果や活用にかかわる情報を収集し、将来的な食品としての活用を検討する。

8. 被害防止施策の実施体制に関する事項

(1) 協議会に関する事項

被害防止対策協議会の名称	登米市農作物有害鳥獣対策協議会
構成機関の名称	役割
登米市	事務局を担当し、協議会の連絡及び調整を行う。
みやぎ登米農業協同組合	情報の提供及び指導、農作物の被害状況の収集
南三陸農業協同組合	情報の提供及び指導、農作物の被害状況の収集
宮城県農業共済組合迫支所	情報の提供及び指導、農作物の被害状況の収集
登米市鳥獣被害対策実施隊 宮城県猟友会登米支部 宮城県猟友会登米東部支部	有害鳥獣関連の情報提供、被害防止等の技術指導。

(2) 関係機関に関する事項

関係機関の名称	役割
宮城県東部地方振興事務所及び 宮城県東部地方振興事務所登米 地域事務所	捕獲許可及び被害防止対策等の協議 有害鳥獣捕獲の実施について、情報提供・ 指導等の実施
佐沼警察署 登米警察署	銃刀法に基づく捕獲活動の安全管理指導 ・助言 鳥獣に関する情報提供

(3) 鳥獣被害対策実施隊に関する事項

95人以内で組織する。
隊長及び副隊長並びに各町域に分隊長を配置し隊員を統率する。

(4) その他被害防止施策の実施体制に関する事項

なし。

9. その他被害防止施策の実施に関し必要な事項

なし。